

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 溝部 昌子	職名 教授	学位 博士(保健学) 東京大学 2003年
----------	-------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
看護技術 高齢者看護 循環器疾患の看護 国際看護	看護技術、循環器看護、血管看護、老年看護学 異文化対応能力 グラフィックレコーディング

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が行う下肢血流障害の評価、深部静脈血栓症予防対策</li> <li>・看護基礎教育における血管看護技術教育</li> <li>・血管看護教育における教材開発</li> <li>・異なる文化的背景をもつ患者への看護ケア</li> <li>・外国につながる人々への看護におけるコミュニケーション</li> <li>・グラフィックレコーディングのヘルスケアコミュニケーションへの活用</li> <li>・グラフィックレコーディングのスキル修得に関すること</li> </ul>

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学概論(前期)</li> <li>・老年看護学演習(前期)</li> <li>・看護研究(前期)</li> <li>・看護総合看護学演習(前期)</li> <li>・看護総合看護学実習(通年)</li> <li>・老年看護学実習Ⅰ(通年)</li> <li>・老年看護学方法論(後期)</li> <li>・国際保健論(後期)</li> </ul>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【老年看護学概論】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 高齢者を理解するうえで、発達段階や人生、社会について知り、思考する態度を養うために、教科書や形態機能学や老年医学の知識や技術だけでなく、説明資料として有効な一般書籍や報告書、調査資料を吟味選択し、提示、解説した。</li> <li>② 高齢者看護で修得すべき知識量は多く、国家試験と直結する情報が多いため、小テストを学期中に2回、定期試験、合計3回のテストと、レポート3回で評価することとした。繰り返し学ぶ機会は増えたと考える。</li> <li>③ 従来、書き込み式のプリントとパワーポイントを教材として用意していたが、学生の取り組み状況に差があり、特に書き込みは該当の教科書ページを指定しているにもかかわらず、何を書いてよいのかわからないという学生が複数いたため、ほぼすべてをパワーポイントに表示した形で、1ページ4枚印刷で直接メモを書き込めるようにした。資料についての不満は聞かれなかった。</li> </ol>
<p>授業科目名【看護総合看護学演習・実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 実習施設での受け入れ態勢が回復し、コロナ以前の従来通りの方法、時間数で実習を行うことができた。このことは、自律した学修や実習計画の策定や調整など、本来の看護総合演習・実習の目的を達成するうえで重要な要素であったと考える。実習施設との信頼関係の構築、実習施設の理解によるもので、今後も継続できるよう務めたい。</li> <li>② 「脳梗塞患者の意欲低下を防ぐ関わり」、「片麻痺を持つ高齢者のストレスコーピングについて」、「透析患者の下肢虚血予防におけるフットケアとリハビリテーションの実態と効果」、「血液透析治療における心理面への影響の検討」、「外国人看護師が日本の病院で働くことの現状」学生は個々のテーマで総合実習を実施した。事前の学修、計画、準備、調整などの一連のプロセスは全体指導と個別指導により計画</li> </ol>

した日程通りに行えた。最終的に、看護総合演習・実習報告書として、2施設 A4版44頁、57頁を印刷製本した。

- ③ 就職活動、国家試験対策、進学へのサポートは、4月から行っていたが、総合演習・実習の実施と並行しながら、自然にすべてが順調に進んでいったように思われる。本来の看護学科4年生の学業生活の中で、卒業前教育が行えたものと考ええる。

#### 授業科目名【看護研究】

- ① 3年生前期で看護学演習での課題、グループワークが多く負担であるとの例年の懸念から、今年度よりグループでの調査研究を実施するのを取りやめた。代わりに、個人で研究テーマ、課題を設定し、指定論文の文献クリティーク、指定論文の抄録作成、英語論文要約、自身のテーマに関する文献整理、研究説明・同意文書の作成、研究計画書の作成、フォーム作成の課題を課し、グループで質的データの内容分析を行った。それらをすべて評価対象とした。
- ② 研究に関するすべてのプロセスを個人が体験したことは意義深かった。また、講義時間内に個人PCで作業を進めることができ、教員が巡回しながら指導できたことも大変良かった。
- ③ 個人作業であったが、作業を教えあったり、成果をグループで発表するなどして、学びの共有が促進されたこともよかった。
- ④

#### 授業科目名【老年看護学演習】

- ① 老年看護学演習では、グループワークではなく、必ず個人が老年看護学における看護過程の展開を経験することを優先的に考えている。アセスメントのパターンごとに、丁寧に解説をする、アセスメントに含めるべき内容を資料として配布することを毎回徹底して行った。また、提出された課題を確認し、優れたものを紹介しながら全体にフィードバックすることを継続した。
- ② 課題の解説とは別に、各パターンにおける看護問題に関連した実践的な看護技術、方法について、詳しい資料を提示して講義した。資料はすべてパワーポイントとして新しく作成し、将来的にも活用できる実践的な情報を豊富に含むものとした。実習病院として、小倉リハビリテーション病院、戸畑共立病院、小倉第一病院が予定されており、それぞれの患者、看護に対応できる事前知識は提供できたと考ええる。
- ③ 事例課題の疾病を見直し、実習病院での看護過程に対応できるよう、新規の肺がん、慢性腎不全患者の紙上事例を作成した。
- ④ 看護技術の実習は、実習室の確保が難しく、土曜日に2コマ開講し、ブース制で排泄援助、下肢血流評価ABI測定、入浴介助DVD学修、KYT危険予知トレーニング、義歯洗浄を行った。教員は3名と、限られた実習機器の制約が大きかったが、ワークシートの活用や事前の計画、打ち合わせにより、予定の項目を安全に実践することができた。

#### 授業科目名【老年看護方法論】

- ① 老年看護では、様々なツールを用いて患者の状態を評価し、ガイドラインを用いてケア方法を検討することが多く、どの單元においてもエビデンスに基づいて看護を実践し評価するという原則に沿った授業を展開した。また、栄養や排泄など、どの單元においても、患者の生活歴や意向、環境によって目標や手段、方法が変わってくることも特徴的であり、知識の提供と同時に必ず説明するようにし、課題についても単なる情報整理でなく思考を伴う形式とした。
- ② 今年度は、講義資料をA4プリントからパワーポイント印刷に変更した。また、1頁2スライドとし、学生があとからPDFで確認する必要があるよう、そのままのサイズで書き込みや勉強ができるようにした。紙の量は増えたが、参考資料などが散在せず、学修の流れの中に図表や参考Webサイトを確認することができ、注意を高めることにつながったと考える。7回の課題提出、毎時の感想など、都度質問への回答や、学びの共有、補足説明などのフィードを適宜行った。

#### 授業科目名【国際保健論】

- ① 過去にこの科目で履修者が制作した「文化的安全を守る看護 食事にまつわる患者ケア」、「看護英語ノート」や、海外調査や研修の写真を多く講義に取り入れ、関心を高めることと、教科書的な知識を結びつけることに努めた。
- ② EPA 看護師として実習病院で勤務する外国人看護師に出講していただき、海外で勉強することや働くこと、外国人として日本人を看護することの難しさや意義について学生に直接話をしていただく機会を設けた。また、米国でNPとして勤務する日本人看護師によるオンライン講義を実施した。教員や資料から伝え聞くことと、当事者から直接話を聞くことの違いや意義についても理解されたと考える。
- ③ この科目での課題は、ゲストスピーカーへの質問や感想の他、「海外で興味のあることの光と影について」「医療における人種差別」「世界の衛生習慣」「CLAS 基準について」について、視野と知識が拡大したと考える。

授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】

- ① 3 か所の実習施設の協力を得て、臨地実習を継続している。学生の体調不良や実習施設での感染予防対策上の事由で、学内実習、遠隔実習となった日があったが、数日に留まり、2022 年中は、ほぼ従来通りの臨地実習を行えた。実習方法の変更は、COVID-19 感染症流行下における代替実習において作成した様々な教材を活用することで、柔軟に対応できている。実習病院で作成していただいた動画、倫理課題に関するディスカッション、老年看護における高度実践に関する動画資料、学内技術実習課題などである。
- ② 2023 年実習施設の制約により、実際の患者と対面実習が困難となっており、高齢で、重篤な病態の患者が対象となる場合の実習方法、実習施設の選定に課題が残った。
- ③ 学生 1～3 人を 1 組として、患者を担当する方法を全面的に実施しているが、学生による対象と病態の理解、臨地実習指導者の指導、教員の指導がいずれも充実した結果となっている。患者安全、学生安全、指導管理の面からも継続していきたい。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
・日本看護系大学協議会	広報・出版委員会委員 2012-2014 年	
・日本血管外科学会	チーム医療推進委員会委員	2014 年～現在に至る
・日本血管看護研究会	代表世話人 研究会プログラム委員	2015 年～現在に至る
・日本リンパ浮腫治療学会	評議員 2016-	2016 年～現在に至る
・日本看護科学学会		1999 年～現在に至る
・日本看護管理学会	選挙管理委員会委員 2003-2005 年	2003 年～現在に至る
・日本看護評価学会	編集委員会委員 2016 年- 編集委員会委員長 2021 年～	2011 年～現在に至る
・日本循環器看護学会	学術委員会ワーキンググループメンバ ー2018-2020 年	2014 年～現在に至る
・日本看護理工学会		2016 年～現在に至る
・日本静脈学会		2022 年～現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【著書】 なし				
【学術論文】 COVID-19 感染状況の変化に対応した老年看護学実習方法の検討	共著	2023年3月	西南女学院大学紀要 Vol.27	COVID-19 感染症流行下における老年看護学実習の方法の変更、工夫について、実習目標に対する妥当性から整理して述べた。 A4 版総頁数:147 頁、p133-142 金子由里、溝部昌子、吉原悦子
<p>【報告書】 老年看護学アセスメントガイド2.0</p> <p>看護総合演習・実習成果報告書 「小倉リハビリテーション病院」 「小倉第一病院」</p> <p>循環器看護の定義及びステイトメント作成にかかわるワーキンググループ活動報告書</p>	共著	2022年8月	西南女学院大学保健福祉学部看護学科 老年看護学領域	<p>高齢者看護におけるアセスメントガイドについて、従来あったものを改訂し、収集する情報をベースに整理し直したもの。老年看護学実習だけでなく、老年看護学の知識の体系化を図りつつ老年看護方法論の展開の基盤として活用できるものとした。 A4 版8頁 溝部昌子、金子由里、吉原悦子</p> <p>「脳梗塞患者の意欲低下を防ぐ関わり」、「片麻痺を持つ高齢者のストレスコーピングについて」、「透析患者の下肢虚血予防におけるフットケアとリハビリテーションの実態と効果」、「血液透析治療における心理面への影響の検討」、「外国人看護師が日本の病院で働くことの現状」 A4 版44 頁、57 頁 依田優花、手塚菜摘、牧美乃里、田中葵、藤田彩花、溝部昌子</p> <p>日本循環器看護学会学術委員会、循環器看護の定義及びステイトメント作成にかかわるワーキンググループの構成員として、関連学会の Scope of Practice や倫理綱領を参考に、循環器看護の定義（案）を策定し報告したもの 岡田彩子、三浦稚郁子、北村愛子、瀬戸奈津子、仲村直子、濱上亜希子、三浦英恵、溝部昌子、南川貴子 Vol18.1 p51-55</p>
	共著	2022年12月	西南女学院大学保健福祉学部看護学科溝部ゼミ	
	共著	2023年1月	日本循環器看護学会誌	

2022年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<b>【学会発表】</b>				
Internationalization Guidelines to enhance Nurses' Cultural Competence and Hospital Systems	共著	March 10-11 TOKYO, JAPAN	EAFONS 2023	看護師の文化能力測定尺度の日本語版質問票の妥当性研究、看護師対象の調査結果に基づく外国人患者対応での困難の類型化、看護国際化ガイドライン開発の、これまで基盤研究Aで行ってきた看護師の文化能力教育に関する研究をまとめた報告 Ariko Noji1, Shigeko Kamishima1, Akiko Nosaki, Sachiko Iijima, Akiko Mizobe, Mari Kondo, Sayaka Kotera
<b>【その他】</b> 編集後記	単著	2022年12月	日本看護評価学会誌 Vol12 (1)	p61 <u>溝部昌子</u>
グラフィックレコーディング 第7回日本血管看護研究会ライブレコーディング	共著	2022年5月27日	第7回日本血管看護研究会 教育講演	教育講演4演題について、リアルタイムにグラフィックレコーディングを行い、講演後振り返りのプレゼンテーションを行った <u>藤村百音、平井優花、金子由里、溝部昌子</u>
<b>【招聘講演・講師】</b>				
対話型ヘルスコミュニケーションにおけるグラフィックレコーディングのすすめ	単著	2022年5月27日	第7回日本血管看護研究会会長基調講演 (於 北九州)	<u>溝部昌子</u> 第7回日本血管看護研究会抄録集

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護師による POCUS 活用に関する研究-DVT 予防対策と安全なケアへの効果-(20H03990)	文部科学省科学研究費補助金 基盤 (B)	代表：○溝部昌子 (FY2020-2024)	910,000円 (R4)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 間 期 等
・ 日本血管看護研究会	代表世話人 学術集会主催 学術集会プログラム委員 第7回日本血管看護研究会大会長	2015年～ 2015年～毎年 2015年～毎年 2022年
・ 西南女学院大学 認定看護管理者教育課程	教育運営委員 検討委員	2018年度より ファーストレベル開講式出席 運営会議出席 3回
・ 日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	2020年12月1日～現在に至る
・ 第5回日本フットケア・足病医学会 九州沖縄地方会学術集会	プログラム委員	2022年10月～
・ 第43回日本静脈学会学術集会	プログラム委員	2022年10月～
・ モントレーブルーラメール管理組合	理事 監事	2021年6月～ 2022年6月～

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流委員会委員</li> <li>・ 図書委員会委員</li> <li>・ 看護学科3年生アドバイザー 責任者</li> <li>・ 看護学科保護者懇談会</li> <li>・ 看護学科研究推進委員会委員</li> <li>・ 看護師国家試験対策補講 (老年看護学)</li> </ul>
---